

指針第2号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,563	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素ス 換算 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		4,563

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	t-CO ₂	令和 5 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）	/		%		%		%		%	
温室効果ガス みなし総排出量	/			t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）	/				%		%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度	t-CO ₂ / m ²	令和 6 年度	t-CO ₂ / m ²	令和 4 年度	t-CO ₂ / m ²	令和 5 年度	t-CO ₂ / m ²	令和 6 年度	t-CO ₂ / m ²
原単位あたりの 排 出 量	0.1604	t-CO ₂ / m ²	0.1556	t-CO ₂ / m ²	0.145	t-CO ₂ / m ²	0.1445	t-CO ₂ / m ²	0.1557	t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）	/		3.0	%	9.6	%	9.9	%	2.9	%
原単位あたりの みなし排出量	/				0.1192	t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）	/				25.7	%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2023年（令和5年）1月に新工場が竣工し延床面積が22,917m²から35,701m²に増加しました。新工場の稼働率が半分程度のため延床面積を半分と見なした場合、削減率は2.9%でした。すべて加えた場合は、20.3%でした。削減率が前年度から現象した理由は旧工場、新工場共に稼働している状況で電力使用効率が下がっているためです。新工場への移管が完了し旧工場が停止した際には改善する見込みです

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第2号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温度を順守する。 冷房28℃、暖房20℃ ・空調機を順次省エネタイプに切換える ・クールビズ、ウォームビズの運用を促進する。 ・窓を順次二重窓タイプに変更する。 		年2回の節電通達で温度管理の順守を依頼した。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・更新時に省エネタイプ（LED照明）へ更新する。 ・昼休み時間の消灯を徹底する。 ・不要時の消灯を徹底する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み時間の消灯を徹底した。 ・不要時の消灯を徹底した。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネモード設定を徹底する。 ・待機電力の削減を推進する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・省エネモード設定を徹底した。 ・待機電力の削減を推進した。
省エネルギー・省資源の行動の実践・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・便座ヒータの運用を継続する。6月－10月停止 ・電気式給湯器の運用を継続する。6月－10月停止 		<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の節電通達で温度管理の順守を依頼した。 ・便座ヒータの停止期間を1か月延長した（5月～10月）
自動車利用における取組	業務による移動は公共交通機関を利用する。		公共交通機関を利用した。

指針第2号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2022年8月	太陽光発電	発電容量：120kw 発電量：150,994kwh
2024年7月	太陽光発電	発電容量：140kw 発電量：142,976kwh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--